

げん じ へい し 源氏と平氏の戦い

源氏と平氏の戦いは、「平家物語」や「吾妻鏡」などの作品で伝えられ、さまざまな伝説やお話が残されています。本や絵図などを使って、戦いの様子やエピソードについて調べてみましょう。



いちのたに 一ノ谷の戦い

平氏は源義仲との戦いに敗れたあと、一ノ谷（現在の兵庫県神戸市）で立て直しをはかっていた。一ノ谷は海と川、山に囲まれ、敵がせめこみにくい地形でした。北側には、地元の人が「馬では通れない」というほどの険しい山が広がっています。山側からは攻撃できないだろうと安心していただ平氏の予想をうらぎって、源義経は山の急斜面をかけおり、一ノ谷にせめこみました。平氏軍は大混乱になり、多くの戦力を失いました。

↑  一ノ谷の戦いで斜面をかけおりる源氏軍（埼玉県立歴史と民俗の博物館蔵）



やしま 屋島の戦い

一ノ谷の戦いのおよそ1年後、瀬戸内海の屋島で源氏と平氏が戦いました。戦いが行われたある夕方、平氏側から1艘の小ぶねが源氏側に近づいてきました。小ぶねのへさきにはさおが立てられ、その上におうぎがのせられています。平氏軍は、「おうぎをうち落としてみよ。」と源氏軍を挑発しました。源義経の命令をうけて弓を射った那須与一は、みごとに成功し、源氏と平氏の両方の人々からほめたたとえられたと伝えられています。

↑  おうぎをうち落とす那須与一（滋賀県立琵琶湖文化館蔵）



だんのうら 壇ノ浦の戦い

壇ノ浦の戦いでは、海上での戦いが得意な平氏の水軍が最初は戦いを有利に進めました。苦戦していた源氏軍でしたが、時間がたち、平氏軍に不利な潮の流れに変化すると、形勢は逆転していきました。勝つことが難しくなった平氏軍の平教経は、せめて源義経を道づれにしようと、義経の船に乗りこみました。教経は組みかかろうとしたが、義経は別の船へと飛び移ってのがれたと伝えられています。

↑  船へ飛び移る源義経（東京国立博物館蔵） 赤旗が平氏軍、白旗が源氏軍です。

壇ノ浦の戦いで平氏はほろびました。平清盛の孫で、6才だった安徳天皇も、平氏の人々とともに海中に身をいづめました。